

科目名	児童・家庭福祉総論 B					単位	2.0
担当教員	井上 薫						
授業形態	講義	開講期間	前期	配当年次	2	授業番号	1518

●授業のテーマ

子どもの権利と児童・家庭福祉

●到達目標

児童・家庭福祉の意義と制度を体系的に理解する。

●学習内容(授業概要)

児童・家庭福祉は、児童・子育ての環境・家庭を視野に入れつつ、児童・家庭福祉の理念、制度、方法の総体として理解することができる。現在、児童福祉法改正をはじめとして、児童・家庭福祉改革が進行中である。改革の理念は、児童の権利に関する条約、ウエルビーイングの理念、利用者主体の思想などである。児童・家庭福祉の理念と児童・家庭福祉の制度・施策の現状について、理解を深める。

●学習内容(授業計画)

1. 児童とは何か
2. 児童福祉とは何か
3. 現代社会と子どもの生活
4. 児童福祉の理念：国際的動向（子どもの権利・大人の責任）
5. 児童福祉の理念：日本
6. 児童福祉の歴史（日本）
7. 児童福祉の歴史（石井十次）
8. 児童福祉の歴史（欧米）
9. 児童福祉及び関連施策の体系
10. 児童福祉法
11. 児童虐待防止法、DV防止法、売春防止法
12. 母子及び寡婦福祉法、母子保健法
13. 児童・家庭のための手当、子育て支援関係の法制度
14. 児童・家庭福祉制度にかかわる専門職の役割と実際、ケースマネジメント
15. 総括

●準備学習・事後学習の内容

準備学習としてテキストの該当の章の重要語句（2語程度）の定義を書くこと。事後学習として、授業の中で出てきた重要な概念についてのまとめを作成すること。

●成績評価方法・基準

試験により評価する(100%)。

●テキスト（必携）

《No.1.》書籍名：子どもと家庭の福祉を学ぶ、著者名：松本園子、堀口美智子、森和子、出版社：ななみ書房、販売先：(株)Do

●参考文献／その他

『福祉小六法』みらい

●履修上の注意

授業に欠席・遅刻しないこと。授業中の私語・携帯電話の使用は禁止。

履修は、原則として、子ども学専攻または保育士課程の学生に限る。

テキストは必ず用意すること。テキストを用意しない学生は不合格になることがある。